

神経剤解毒剤自動注射器を使用した特殊災害訓練を実施

柏市消防局

柏市消防局では、令和3年7月7日に市内体育館を使用し、東京オリンピック・パラリンピックで懸念されるテロ災害に備える特殊災害（化学テロ）対応訓練を実施しました。

バスケットボールの試合中に何者かによりサリンが撒かれ複数の観客が負傷、神経剤解毒剤自動注射器を使用し救出、毒劇物に汚染された傷病者の除染や応急処置を行う訓練を実施しました。

神経剤解毒剤自動注射器を使用した大規模訓練は初となり、今後も継続的にテロ災害発生時における対応力強化を図ってまいります。



令和3年度職場集合研修をハイブリッド方式で実施

東大阪市消防局

令和3年8月27日（金）に総務省消防庁女性消防吏員活躍推進アドバイザーの異真理子氏を講師にお招きし、「みんなが働きやすい職場になるために」等をテーマに職員約120名が職場集合研修を受講しました。

本研修は、対面講義とWEB会議システムを活用して、各消防署に配信するオンライン講義を同時に進めるハイブリッド方式で実施され、全職員にとってニューノーマルな研修方式でしたが、風通しの良い職場環境の醸成に向けて理解と知識を深めることができました。



消防通信 望楼 ぼうろう

阪神・丹波地域MC協議会事後検証委員会 リモート研修の実施

西宮市消防局

阪神・丹波MC協議会に属する消防本部（9市1町※）は、2か月に1度行われる阪神・丹波地域MC協議会の事後検証委員会を「医師が参加する研修会」と位置づけ、各本部（各消防署等）においてリモートで傍聴しています。これにより、広範囲の地域、複数の消防本部からなる当地域のMC協議会において、コロナ禍にあっても研修（再教育）の機会を確保し、受講者数を大幅に増やすことが可能となっています。

今後も、各本部の指導救命士をはじめとした指導的立場にある多くの救急救命士たちがMC協議会に参画することができる機会を設け、消防本部間の連携を図ることでMC体制の強化につなげていきます。

※西宮市、尼崎市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、丹波篠山市、丹波市、猪名川町



病院前周産期救急訓練

筑紫野大宰府消防本部

当消防本部では、新型コロナウイルス対策の徹底を図り、救急隊45名を対象とした病院前周産期救急訓練を実施しました。

令和2年版消防白書の年齢区分別搬送人員構成比率では、新生児の搬送件数は全体の0.2%であり、当消防本部の昨年の件数からすると、約14件に相当します。この訓練では、簡易的な分娩介助資器材を作成し、分娩介助とその後の新生児の評価やNCPR訓練を実施しました。

各隊員、熱心に訓練に取り組み、病院前での周産期救急に備えています。



消防通信／望楼では、全国の消防本部、消防団からの投稿を随時受け付けています。

ご投稿は、「E-mail:bourou-fdma@ml.soumu.go.jp」まで【225文字以内の原稿とJPEG画像を別ファイルで送付してください】